

<要旨>

近年災害が激化する日本において、災害による被害を減少させるためには共助と自助が重要である。そのためには正しい防災知識が必要である。そこで防災知識を培う場所はどこか考えたところ、小学校・中学校といった義務教育の場であると明らかになった。その例として東日本大震災の際、宮城県石巻市立大川小学校で起きた被害が強く頭に残っている。教師や生徒の正しい防災知識があれば助かる命は増えたのではないだろうか。

そこで本研究では学校における防災教育の成功例と失敗例を踏まえ、新しい防災教育について提言していく。